

素晴らしい演奏と明るく元気な姿で会場を魅了  
日野高等学校 第13回定期演奏会



美しいハーモニーで会場全体が感動に包まれる

日野高校で音楽を学ぶ音楽系列の生徒が学習成果を発表する定期演奏会が、1月24日、町文化センターで開かれました。

これは、生徒が日ごとの授業の中で身に付けた音楽技術、表現力などを発表する1年間の締めくくりの場として開かれており、今年で13回目を迎えます。当日は、日野高校の全校生徒のほか、生徒の家族や町内外から多くの人が来場しました。

定期演奏会は2部構成で行われ、1部では2年生と3年生が、ソプラノ独唱やテノール独唱、ピアノやヴァイオリンの独奏を発表しました。はじめは緊張した表情でしたが、演奏後に送られた拍手にホッと

表情を見せていました。

2部は、生徒に楽器などの演奏指導をしている教員らがピアノ3重奏を披露したほか、生徒が学年ごとに分かれ教員らと合唱を行いました。2年生が曲と会場の手拍子に合わせて踊り、ステージと客席が一つになると、3年生はしつとりとした合唱で会場を魅了していました。

最後は、長野オリンピックのテーマソングにもなった「旅立ちの時に As i a n D r e a m S o n g」など2曲を全員で合同演奏しました。心に染み入るような美しいハーモニーと旋律が感動を誘い、会場から大きな拍手が送られていました。

魅力あふれるキャラクターや物語との出会い  
お芝居くらぶさん・ふいーるとオムニバス公演



出演者の豊かな表現力が舞台を盛り上げる

町内で活動している劇団・お芝居くらぶさん・ふいーると(佐野咲百合代表)のオムニバス公演「さんふいヒミツの部屋2」が、1月18日、町開発センターで上演されました。

37回目の公演となる今回は、定番の「オシドリ仮面」や書きおろしなどの短編を披露。出演者のコミカルな演技に会場からは笑い声が起っていました。

また、最後は同劇団の旗揚げ公演時の作品を朗読劇にアレンジしたものを初披露し、豊かな表現力に会場から大きな拍手が送られていました。

ふるさとのことば

～日野弁なんずかんず～ 第19回

「けんびき」

「けんびき」とは、肩こりや疲労によって引き起こされる頭痛や倦怠感…とでも言いましょうか。とにかく、がいにくたびれて肩が張ったらとりあえず「けんびき」。「けんびきが出てしゃったけん今日は休んどったわ」などとよく聞きますね。その語源は、肩こりの漢語表現「痙癖(けんぺき)」です。

医学用語と方言の面白い関係としては、もう一つ、「腸感冒(ちようかんぼう)」があります。これは正式な病名ではありません。正しくは「感染性胃腸炎」。これも立派な方言だと言えるでしょう。

日野弁ピックアップ「け」

～げ…～の家。「うちげ」「お前げ」  
けちな…妙な。不審な。  
げっちょ…ビリ。最後尾。  
～げな…～そうな。～らしい。「眠たげな」  
けなるい…羨ましがる。

協力：日野町歴史民俗資料館友の会



子どもたちと短冊や飾りを作って交流(七夕会、平成10年)

# おかげさまで 20年

## ▶日野国際交流協会

日本語教室から始まり、七夕会やもちつき交流、ふれあいまつりへの参加など、幅広く交流活動を行っている日野国際交流協会（小谷博徳会長）が、1月22日に設立20年を迎えました。

そこで、同協会の田貝桂子さん（根雨）にこれまでの活動や思い出などを聞きました。

### 日本語教室から始まった20年

日野国際交流協会は、平成7年1月22日の設立総会から今年で満20年を迎えました。

はじめは英会話教室から先生と生徒が入れ替わり日本語教室になったことです。そこに外国語指導手の人やフィリピンからこちらに嫁いできた人たちが7、8人通ってきました。

そのうち、交流の活動を広げるために、交流協会が設立されました。日本語教室の生徒も町内だけではなく、江府町や日南町、そして岡山県の千屋（新見市）からも来ていたこともあり、協会名を改めて「日野町」とせず、「日野」国際交流協会としました。

### 日本の文化、伝統行事などを取り入れた活動を実践

活動は日本語教室を核とし、その中に日本の文化、伝統行事などを取り入れ、生け花、書道、ちまき作り、七夕、ひなまつりなどを行いました。日本語教室は平成19年度に休止しましたが、協会の活動はそのほかにも、ジャガイモ掘りやもちつき交流、クリスマス会、そしてふれあいまつりにも参加しています。ふれあいまつりでは、喫茶コーナーを設け、そこで募金箱を置き、皆さんからの善意を毎

年ユニセフに寄付しています。

### 記憶に残る

### 「夢みなと博」への参加

これまでの活動の中で一番のビッグイベントは、平成9年に開かれた「夢みなと博」に参加したことです。日野高校（当時日野産業高校）の生徒さんによる神楽演技「ドラゴン 日本海を飛翔」に賛助出演し、日本人会員はもとより、タイ、フィリピン、韓国、中国の人たちとチャイナ服、チマチヨゴリ、着物などの民族衣装を着て、総勢85名のにぎやかな舞台を繰り広げました。

20年という、一つの節目を迎えました。これからもさまざまな活動を通し、皆さんとの交流を広げていきたいです。



国際色豊かな神楽を披露(夢みなと博、平成9年)

## 国際交流協会 20年を振り返って

日野国際交流協会会長 小谷 博徳

国際化が喫緊の課題といわれ、各市町村に国際交流協会が設置され20年。本町も韓国との交流など華々しいデビューでありました。

振り返ってみると、フィリピン・韓国・中国などから、この町に来られた皆さんに、日本語教室を毎週開いたり、習字やお茶、生け花、七夕、お月見、座禅など日本の文化に触れていただくなど、補助金もいただかず、すべて会員の手と会費で運営してきたことに、汗と苦労の中に感動が凝縮された20年

でありました。

当時生まれた会員の子どもたちも20歳を過ぎ、立派な社会人として巣立たれ、20年という年輪の重さを感じています。

スタッフの高齢化や未来へのバトンタッチなど抱えた問題は大きい中で、今なお継続して活動していることに会員および町民の皆さんに心から感謝しています。